宅配で社会へ第一歩

横須賀 引きこもり若者ら新事業

横須賀市上町の特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）「アンガージュマン・よこすか」に集う引きこもりの若者らが、来年度から新規事業を始めようと立ち上がった。「自分たちの手で、自分たちの仕事を」が合言葉。四つの事業化の実現に向け、議論を重ねている。11日には、トライアル（試行）として山形県の物産品の宅配事業を開始。配達や荷造り、チラシ作りなどを通じて社会参加を目指す。

新規事業開始にあたり「ヨコスカ濃いめｄｅリエゾン団」なるグループを結成。横須賀ならではの視点を生かし、社会や地域と深くつながろう―との思いが込められている。会合は8月にスタート。スタッフのほか、アンガージュマンを利用する20代～40代の十数人がメンバーに名を連ねる。

アンガージュマンには、引きこもりの若者たちで運営する「はるかぜ書店」があるが、新規事業は、これとは違う形での社会参加を促すのが目的。子育て中の親子を対象にした居場所や高齢者のための居場所づくりなど、四つの事業を検討している。

山形県の物産品の宅配事業もその中の一つ。農業者による交流や販売事業などを手掛ける「山形県新規就農者ネットワーク」とのつながりから、毎月11日に「山形物産市」を開催、同ＮＰＯ法人の若者たちが販売体験をしているが、「大勢のお客さんを前に接客したり、計算したりするのが大変という若者もいる」と島田徳隆事務局長。「宅配事業にすることで商品の受注、荷造りなど、できる作業をゆっくりしたペースでやってもらえれば」と話す。

自らチラシ作りを申し出る男性が現れるなど、早くも若者の意気込みが感じられる面も。11日の物産市でチラシを配布、地域の人たちにＰＲする予定だ。

同日から申し込みを受け付ける物産品のセットは旬の野菜や果物、新米などを詰めたもので、価格は2千円。農作物の収穫は天候などに左右されるため、内容はその時々によって変わる。配達区域は横須賀市内を想定している。

島田事務局長は「われわれの〝おぜん立て〟が必要な場面もあるだろうが、若者が主体的に取り組むことが重要。宅配事業を皮切りに、そのほかの新規事業も実現、成功させたい」と話している。（岡本　晶子）

新規事業の開始に向け、意見を出し合う「ヨコスカ濃いめｄｅリエゾン団」のメンバー
＝横須賀市上町